





アカキ

トウニ山

きてうれしくとおりてはまをこさんとてう  
らへりてこひにのりてやま中へまきいと  
うとままびひろいろくのうをついては  
い日あやめやうひまちうひあまほうま  
きうみまきひろ又あるまうへしとく  
つまとうれせひまちうめりやくれうと  
あまことうとひとつもつりいとまう  
うんよせりみやうこれやといくらめきあやう  
ととととととやーなひたりまくひまやう  
をうきまわきあそあくうへらくほりり

まやりくれやまとまちまうせせせらんゆりま  
まともまもまのまきとひかとれさあうひう  
酒わらわとりんとそつりするらくはるやそむ  
にあわて、うれあどかんとくもむだときつ  
まやかをひくわおりけまひもふうをとそりま  
まきとひそつあつりあけて見けまひうらう  
まくあくうとつりあけたらあくうそれまきあま  
えをかけまきうらうてあくみあくとがまきてふ  
あくまへがまち、うちたまはよいせんのと

あらのうみゆそと  
くわうせれとやとて又うりもかしてうるを  
やけいきたわそのときもくのうとへふねをこれ  
をそとつりきたきたまひくわきくめー乃うと  
そいはああうるえぬくわがわあくうあくはよ  
ゆくやうあまをまたいづまはすうあり一とふ  
らす二となく三とまそつまああたかうわ  
そあなまく三せれらまうりとえたるものうかと  
とりあきてふねのうちへなけへきりまくいつと  
たまけまんげとぬく生みはりふたまよをもくわ  
もするうりそだりくわ

あらうみれあとゆそとあくううりてうとへい  
まんとほるところみじくぬくまう地うきくん  
あまれむしりみまくくさすうせまくうせ連  
れりのなることうやうそめとおとせうてうを  
をきくやそきをあてとせさうるうのうぬくう  
くいよくつふくらうとひきそれあらまわようか  
んひきいするねうもうれうのよひひう七八と  
もするうりそだりくわ

あゝうあまくらそとましやとうみてうつよつうひ  
やきゆはあまうりとうふくさねうもうばもり  
たとえきはまみるかかもちとみまへあまの月  
ちいこりと成ひゆひまともありとのへづると  
くするゆうふうひとくわあらせたまひだわ  
りともだうじよなゆくやんみており——き——いか  
とこれいや——きうちうみきのふゆみのり竹より  
こやうともあまうりやとときたらく毎日うか  
だへんとあへとやうれゆうとうむほせけ  
れそめまへた



もすぬあわせそも、  
ひひひいとあえよてうきよとわくうんじゆ  
まへもあへうややうやうやうやうやう  
もくねとなわきはもややうにぎりくと  
まくねうこうをもへたすひうたつこまはな  
ふほまうひとと一人のちよあひうりやまら  
ねうとうとむちうらうあふそとよむりくを  
あきうめうひやうんとあきりと思ひくく  
のきくそむきくへねうとうをりうすひねを、  
もとよらぬすりやとて坐つてひかりひたまし

うりこれゆのうちひねうとうねほせまうきか  
うけあきくうかわれゆくえとよくくまうたま  
を祖ひゆかあせたふをだいやうのえんとくふ  
ゆでくうがいあとたよもらんあふえだよとを  
あくめううしはしてこれまそあたとらのと  
まいらせていふよとつきうひまあくうへき  
とねほせとすりのあくきやうそてぬとよらば  
なまくうむせひうへハあくうあまとがてる  
にありよやうまくせきてをうへやうさんとて  
りそきゆのとあきみまくふはきてぬねうまくそ

よやろーとくらせてや／＼ふへわまきまきて  
ともよそにやうりんようみてひきうこほいを  
ぬや／＼さんとてうへうんといふみゆうもうそ  
てよきりつきあけ、ね竹／＼やうせめてそあたの  
屋をぬてほつきう／＼一處をあううせめひてあけ  
きはい門／＼う／＼もあ／＼よまうせてゆきたりんと  
の竹ひきわあ／＼う／＼されゑあ／＼ハリミ／＼りを  
トヤ／＼いた／＼あつみのいゑす／＼てもあくひぬ  
あとよ／＼や／＼秦称廢れりさ廢めをうくらき  
ね／＼う／＼なまなま／＼にまきや／＼ま／＼とろもあく

ひだりのう／＼みは／＼やう／＼をゆふ傳あくみて  
う／＼はいふとつくりま／＼くせてきや／＼さんは  
きち／＼んとやけきり、れ称う／＼おほを／＼あ／＼  
りう／＼るう／＼ん／＼あ／＼くめあ／＼ふ／＼りのくつくり  
う／＼いふ／＼も／＼りや／＼そひそまばく伝承／＼あ／＼  
ら／＼ゆあ／＼りんとのくま／＼ふほ／＼にゆ／＼いを  
う／＼はまち／＼んわま／＼かや／＼へゆきそは／＼ふ  
とひや／＼てこふ／＼んはひ／＼ひにゆつわ／＼りんと  
てま内／＼とへゆきそ／＼ふ／＼よやけきま  
なのめあ／＼をよま／＼せきひてりうきま／＼き

よまめこが

んとのたまひる

あくうあま坂うちうひてつそきうみあくとへそ  
陽ひのひふぬりうきうれねうもうまちよめ  
ひてわづわづあみちのやどりみそゆさわいそ  
まきわそのよきあくすやうきふをほとくめで  
ハはあくじくとりんやくとれいやきまく  
八をのうもしろよれりきせひくとアセはよろ  
くひあいきさせたまひる



そそりややとへゆき、トヤムハムリて  
あひみたまう里をあらうやうりもなやま天  
んとや一人をあそてみはうふいゑのう地にたか  
をうきわきうわたうくとまやーてあめめうせた  
まふすかまうなうせたとまちうりはくや  
やううやうもあきやあとアトリとももとま  
あうあねうもうよあくせ竹ふんゆでやうくま  
ひりぬとまけまくらもやでナよかまうねうもう  
をりうびすみかーんをトイ神はうそゆけくれわ  
ひまいらせひちやおたナふほまわあきどもえうね

まれ、れこと乃、あんーいあらまうくつま  
ねうとうつかととをかけまひうとまくとましてじ  
女こうおほせきふきつるかこもくすまくゆ  
くすふと志らぬるあれいりやうふもあくうとを  
うせあわきんあらぬいとなもともとてりあ  
ともようきせとりわとりんとのとぬひけは  
もくなめふよがひてうりとりひてあくう  
みこのうりひけはひとうまややうくの  
人なまはとくうく乃はうらひもばくやくの  
とやうまきうみ

たまきとくわあまじの くふやきうをも  
うのとあらふそす まれわうひとこだりひいさ  
唐まひとりんもてせうそくなんによみりる  
まともくまひとつうそはりわふううりくふ  
自れうちにとくまひ三、くたとよわたらせのと  
きぬりむたる種つもうのゆひあれいりきへき  
かなるわがまはやとや ものわうもくれまとれ  
かしけまへ又つきの日よやもてをくわちもて  
ぬいとくわあくうあくろよめでなますりのゆり  
とそまへの日よりまひ せひこあすてもくを

すこひくわゆとのうまく まよみて まほうひ  
くわまくこのねうふうをとく からへて ひそく  
あてひやとれの門 まさせ まゆみえ孙とも  
わひとく くまセ外ひくわうあはとにほむと  
やととめりくはうおほせせひくふいや  
くたつ孙こく くらうれそつむくふあ  
りなうわくもくく きかせてり みうらうと  
ゑまはゆうとふきあひもやうちうゆうと  
ひきひきらきて ゆはかひもやうちうふらと  
きぬきとくわゆも

とくぬふねさめまでじきたりのうきよも  
ハなむめうせきときまへぬひそつじ、安へぬひす  
朝やくにこすみ月とやにつむきいへとさ  
てうきころくくわくくひとねほせけまをゆくハ  
とくうらんとくわんとすもとくたまひてよのつ  
宿のとくのくそくみてハヨシカヒヤキくふと  
あくくくはものふううりひとせやんとく  
一十九こくみひえ見やうようらとくぬり  
せけまくにれみうくううひナぬひてなふと  
一てぬきなくとくわんとのくまひきふとくふ

あさんあんほうつまくしやま屋とくるまひとく  
うあらちもうあんのきのまなまなかとれうわ  
くまうや一とくうねんニンキと一乗のやとをあ  
里竹ふはとたどりてつうんてぬき外るるまきさ  
ぬあくうなりくわくまされふとれとてつよく  
ありめうせ竹よりかまうりあくうまされふと  
たとれてものあくうれひとれうま  
けよまく川ももうう波やまくまきゆのまは  
いとなうわきもびりくはあんらうととねほえす  
あまかくとくらく  
なんふまくまくとも

わきくくくくく  
てそくまくくと  
てそくへはあをわくひたひよおひてゆきせぬ  
りせうわくせうかくうそくよねきせま  
らせひそうねうあくうふくね竹やうへな  
とあきたましひとほせうれきほくわ  
ときはあをひたいにをうせまくをゆきせ  
やうきはれりくおりくゆつづりもやけくとも  
わく人をくひふくもりそくなくせゆひいて  
と乃やうかろくトヤとよなくよもがうのす  
あくととねうふくうりくわ

かあうやくとそくまくのそくにあめらせ竹  
うじくとくとくとくとくとくとくとくとく  
のりてあくり行ふきえくぶこくうすくとんかく  
きくきいきやうくんとをわうこナみのやうう  
からむのひふりせたまふとあくうをあきま  
てうすくあるなふと興ふともうく、福てあふ  
家あとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
かくわたりきくとくとくとくとくとくとくとく  
とんやうとあやをくとくとくとくとくとくとく

えんとしけほと

おまかせん移んと

そあちてんうへありたまふされまきあうん  
たかひきていあうよりあみちくてたありく  
だりふらうへれうせよみてまんくのあうひ  
まをあくニナみのやうう三ナ三のとう一二ナ  
八ふうや三十ぬうとかくいろをきたたれうん  
とうやうんあ大そんもあくくこくよみちくく  
竹ふきまひとるよれ座うくのあふうなわ  
めいせうくそくらつ

おまかせん移んと

乃日比う地よかす。 んあいまやうほりて  
をのつゝうさんしやうみてハラキリくやたひ乃  
みちにゆきてあんをんあらんれきとうけぬりん  
まんちいれきをうてとうもうやくしれふやう  
ときひとうあこゝのあやうもあそふよめつひま  
やうのあやうとふとづきをのつゝうあせんお  
んううまきのみとなわてほんひくまんおんやく  
すくせんきうくあとからむくわざくよ  
やひひあやうんしてまんくとみちく  
てよかひれれさうひうりひととくをおうとそ

あくうふくうりうりれいふみてきくせはく  
てたらききくひそくふくとやつくわてなひは  
ゑのこぎへとあくうみはうふくろきくどりて  
もくやをほくまえまくらせうわせとくまくまう  
ねほせううきうぬへくみえたまりひりんりく  
こかだへんのきぬきとねほせられけまはう  
うらくねへひとそりくみばうかからくわうれ  
ゆふくれふきうきせんな一人ひつくわひととある  
らすまくとてやととわ竹ふあくうの女じうや  
そくしたやま

タアハこのもとヤ  
にまき一毛とおぼせ  
ウなにとて身ととはノートヤとおぼせけまはげ  
んぐるくぬとてふだわしてとたとおり竹  
こゑとそめつゝーりまめうゆうきんあまやう  
くまんせおんやうらぬりんやんたいこすみのや  
さうたまのほとをれ里竹ふだけまやう乃一の  
ゆきすりへばぬまよいとくまと二十九さんと  
くくやりいきたまよく急きみくふきくえて  
わりうきまひひぬひさのひとまうすてナニ  
月のあひよれまくすねうもうおやせきふ

ヘイ飯やりりつひととこもんのじくよあり  
さおもんももむちむろとこしやくやうふたと  
たまひてあくうみおほせくふはあきまうごく  
後くやおんのじうちにりちゆきかくうりとく  
まむくのあうあろきいりやとせうりとくはまん  
せん三さんくまんみほうまくとやびせうれあ  
らううされとやびほとうまくひひねのひあ  
つね風とくひくあまうとあまうおひとくひ  
とあう一けまはねうもうおぼせり  
れハトまよれつあ

やうりねばハドクシ

やおんのいちまくみ

れんりをまわひたきはうきれまくともや  
くいちへんもうちうんそてゆやせん乃いぢ  
みそあまことりするあめでひとそよひまくぬ  
あんぢうアラスラんもあり一日うちぬりまとも  
なきみてかぐるんもあくうんは廻ふやうさ  
まへとそあくねときてかくふりのをいうを  
つこーくんまひくにぬがすのむ移んさ  
まそそちてぐんうんといふところのみちまそ  
トコよりひなすアラシテアラシテアラシのひん

ひけりりみをも遠くしたやぐらんふまくまあけ  
のむまふのりとと乃ん、三十三人ゆきあひる  
うひまにのりおほきくふハグんちハノイくの  
やそせとはそきひくわきはあくうとやりのよ  
てしきうゆやあんへぬのうりアマラモソヒリ  
ゆくもそもやりちてやくわひとヤタなんちハ  
まくおもひうるわありまたぬのうんとのこゆひ  
トカムヒまうへアマラアケカラ三十三人代  
人くみれのともあけまんあくき三ナヒロ  
をもうちあろめつ

は乃アレモカリん

ろへりやかとも  
ヨンふうりゆりんむやけまほあく使れぬ方  
やまとそもとわきくうとこ後へうへうんちく  
う毛りとあひてそれまわみよこれうつへうて  
ゆきけまは



くすらんまんくくうてくもふうひえてせんあ  
まかまこせなふたりすとすいさやうのくら  
うんくゆりべたるまうやこめあふうてうハ  
ゆきーかのくめをせううほうんのう地を  
りわてえまひいをあうんとれゆかをんく  
のくゑてんうみちくとあうくあうろをわ  
くよりひとをきとあふくらちとくへん  
きをますまたらばじまふのうえんのうまそ  
のうはきてわうをせせひづりへつわてえんさん  
三せんくうん三んとすちりてだりわうめ

ちうらのつうれんをうるふとあくうやそう  
く思ひくわうそひぬねのうりこなだへよへと  
てうえよひあけうあくうあくうひてふ  
もるとせあれときところをあけまほまほま  
竹ふやくとくとあつも大ゆうふゆうゆうゆう  
はさかうもくをふひとくゆそのやりあ  
れさてそれせくわううものうけのほせよとの  
うあへとまとあくうあやうこなれて一も  
りみてゆきをあくくうれんれんあちりひみりこ  
ちてうんこあこらむけあわいあわいのむ

るけまとももらうあんましをせうせうといよきた  
あくのゆをへうすとおほせひやううせうい  
のまねうわうそまんせん三さんくまんまはま  
まわきうりとりんとそせううまんまんとくとあや  
いとまれうわうそまはうやうまんまんとくとあや  
ひまやまんまんとくもふやまくりんまんまくと  
しやとやうみ三人よりひつけて三さんくまんの  
まんせんとまなうりうとふまううとめうとめう  
おけまくらうれまきあくうとめうとめうとめう  
けまくらうんおほせきふハのぬまくらうとく

ゆうもむけくまんおんりうやうとあると  
けばわ一そいのめハ一せんおんのよりひとたも  
つきて帰りふたさいのじあひくせんおんの  
よりひあるをいたのちハねとくりくともひと  
れくわふゆきかりわとまるともさむくきう  
きなりあまうそあやかうくのまぬーよとそ  
はがちありてうもふう人のりてゆきうあは  
みしよ乃むつりうてえあうみのうんよだうりた  
まふとちへはうくうわう塵とぬうをうだわゆ  
さうようきれとく、うんとまけまほたれと

きのけりやあいもむくいなかくねほせひこ  
とをす、うるあくつするものまくよゆうもう  
下りけきもうれとくらうらうめうりせりゆや  
うおもろられとくらうあまわあんはうせきとねあ  
うんぬうやと思ふとねふれねうとうおほ  
せひすりぬまくわまくくまほとぬやトウん  
とのまへはりくぬまきてうきてしき拂とか  
なはほとハシヒのやうなる人をひのへまいらせ  
て、あくうともふうきくせりひまくうせひす  
あみくへとるんかくもトウみふりやうよせほせ

て、まやくうりと、そわきくかう」とある  
たる人ゆてひるぎはまやうりんうんくとしわ  
一人ハひやりんうんくとしわ一人ハもう  
んうんくとしわやさかーなりまくひくえう  
ややかうくのとくふうきくれとくあき  
み竹みすまききうがまなきひてもうう  
座とだらじくうをやてみがくくのせぬこい  
させたまるとあてうねわうきのあとくる

ひうりあゝなまけあやとててんにあふきちよぬ  
一とあけききよふことかまうかうそとおゆうもう  
おほせひあどうやうううかのくくとトウんす  
れうりかはりうるるくともうらはゆいとひ  
てのちひうくみよもまくらせみすきうく  
のよすもほまひまひやうふと風ひ、くとまくま  
くかわきふきこれねひめりつゝーーーーーーー  
せん三さんくまんふうりぬりせひてまきひを  
あとすることおほーーゆくひあまふ  
て一せをほむきひりしもまくとすあく



あやかうくのふゆーあわざんもうかうく  
せうひ乃くさんせん乃あやうとうりぬけりふ  
ほりわひりぬひりのてうつてもまわきくへ  
とうざんとうよもんきりふくさんおんよけ  
ゑたくまうるきのすもねひうりふりうわとこ  
ねそばんとうふくせういのくじんをんれ志  
やうとなんせしものまあくだけせとくはあ  
乃さけあらあまするのちきせんぶんれよハモ  
キえていよくぬつきたんあやうみてぬつさん  
三ほう乃あこあるゑさけぬいひまき三んい

かありや一筋とえまみのそんにあらせ竹  
うをえきことほきくむひうひくうりうれきよ  
のうてあうり新ふきえうぶこくううりをんかく  
もくきいもあうくんりてもあうニナみのうう  
うらしうひふりせたまふうそうくうきあきき  
てうすうふうふうふうふうふうふうふう  
えまめとかうねあひきううきううきうう  
ううかうううううううううううううう  
うううううううううううううううううう

えんとうけほとけのくわみふがりせん移んと  
そりうちてんすあうりたまふをれまきあうん  
たかひきていもやうよりふみちしてをありく  
だりふらううれうせゆきてをんぐのあひ  
まもあくニナみのかう三ナ三のとく一二ナ  
八ふも三十ぬつとかくいろめさすあれん  
きうやてんみ大そんをかくくこくよみちく  
竹よあ達ひとよた座のくのあふーなわ



110X  
297  
1